

R5 漁期のトラフグはえ縄漁をふりかえって

R5 漁期(今期)のトラフグはえ縄漁は昨年10月から今年2月までに15回出漁し、漁期を通して平年を上回る水揚げがあったことから、総漁獲量は39.1トンと好調でした(図1)。

一方、単価は需要が高まる12月にやや上昇しましたが、漁期を通して低い傾向にありました(図1)。

また、本県で漁獲されるトラフグは、伊勢・三河湾系群に属し、本県の他に三重県や静岡県で漁獲されていますが、その生態には不明な点が多く存在します。

漁業生産研究所 海洋資源グループ

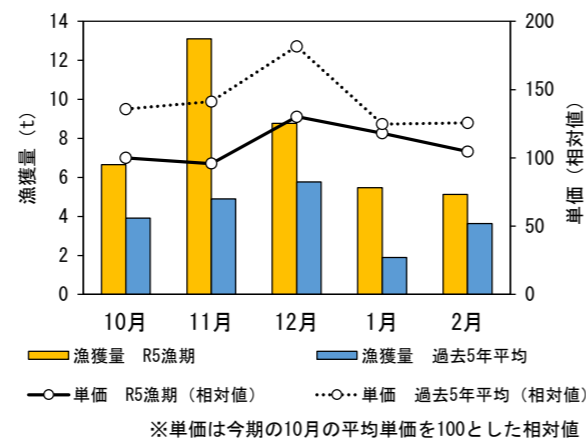


図1 はえ縄漁の漁獲量と単価の推

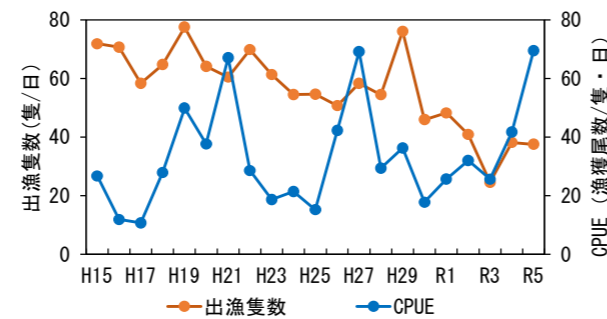


図2 出漁隻数とCPUEの推移

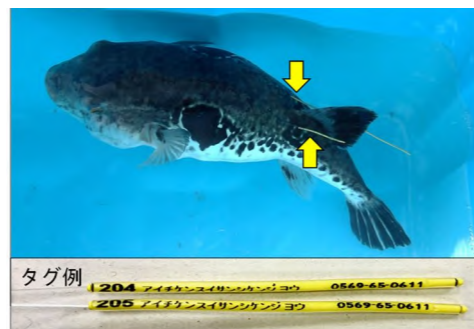


図3 放流した標識トラフグ

豊川におけるアユ流下仔魚の状況

内水面漁業研究所 冷水魚養殖グループ

アユは秋に産卵し、ふ化後すぐに川を下り、冬から春まで海で成長して、春になると豊川を始めとする県内の河川に遡上してきます。

昨年春の遡上アユ数が、調査開始以来、最高であったことから(令和5年6月水試ニュース563号)、秋の流下仔魚数が調査開始以来、最高になったと推察されます。

クロダイは何を食べているのか

愛知県内のノリ養殖漁場ではクロダイによる食害が問題となっています。クロダイは冬季に動物食性から植物食性に変化し、そのことがノリ食害の要因になっているとの指摘があります。

図6は、ノリ漁場で捕獲された8個体と、伊勢湾、三河湾、渥美外海の沖合で漁獲された29個体の消化管内容物の出現頻度割合です。

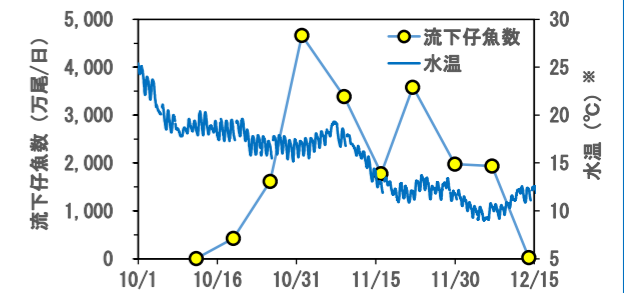


図4 1日の流下仔魚数と当古の水溫 (※豊川下流域(当古)の水質観測所のデータ)

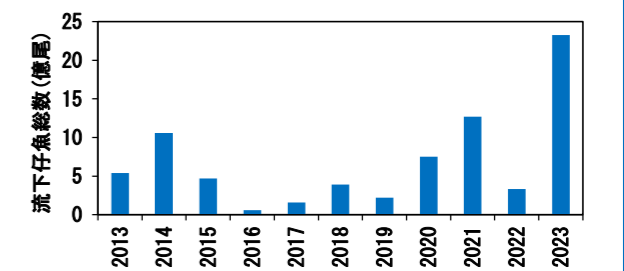


図5 流下仔魚総数(推定値)の経年変化

漁業生産研究所 栽培漁業グループ

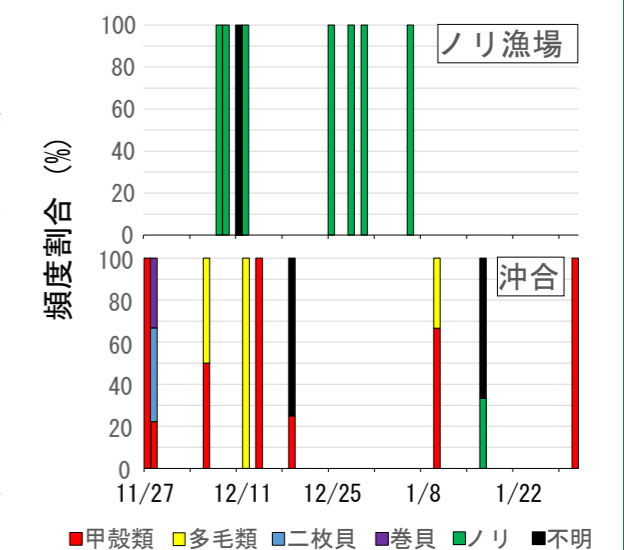


図6 消化管内容物の出現頻度割合

